

平成30年2月1日

第3回八尾翠翔高等学校協議会（報告）

協議委員（5名）の参加をいただき、本校教職員（4名）が同席し協議を行った。主な質疑等については、以下の通りである。

① 学校教育自己診断アンケートの結果について

12月に実施した学校教育自己診断アンケートの結果について教頭より説明した。生徒向けのアンケート結果では、「コンピュータ等のICT機器を授業で活用しているか」の項目が、昨年よりも大幅に上昇している。また、「文化祭や部活動が、昨年度に比べて盛んになっている」という項目でも数値が上昇しており、この点は評価できる。一方、家庭での予習や復習などの学習時間確保が進んでいない点は、相変わらず課題となっている。また、保護者向けアンケートでは、「授業が分かり易い、楽しい」の項目や、「補習・講習を十分にやってくれる」といった項目について満足度が大きく上昇している。一方、「ホームページをよく見るか」の項目では、数値が伸びていない。

【意見・提言】

・最近、小・中学校時代から手厚い保護を受けてきた生徒が多い。コミュニケーションの取り方が不得手で、はっきり自分の意見が言えない生徒も増えているようだ。勉強の仕方なども、自分から積極的に学ぶ姿勢が大切で、学校からいろいろな情報を一方的に提供してくれるという姿勢は良くない。小中と比較して、入学後高校に対して様々なことを要求されても、出来ることと出来ないことがあるので、はっきりと言う必要がある。

・義務教育と高校とは違うということを、保護者ももっと認識する必要がある。

・他府県に比べて大阪の義務教育の指導は緩いと思う。高校では、社会に出てからの常識を大いに学ばなければならない。生徒の力をつけるためには、「厳しき」が必要で、「厳しいから高校へ行く」というような理解が必要に思う。

・一人っ子が増えているからか、兄弟から上級学校について学ぶ、社会の常識について学ぶといった機会がほとんどない。学習にしても、少し上の先輩のような指導者から受ける刺激は大きい。大学生を招いて、チューターとしてこうした指導を委ねることを考えてみてはどうか。

・高校生が、自身の卒業校へ赴いて、高校生活を語るような試みをもっと増やしてほしい。そうすれば、プレゼン能力の向上にもつながる。

② 本校の校則等について

本校の校則について教頭より説明した。本校の校則は、他校とほぼ同様の内容であり、とりわけて厳しすぎたり、奇異であったりといった点はなく、時代に応じて毎年見直しもを行っている。ただ、学校でのルールを守ることにに関して、きっちりと指導している点が、「厳しい」といわれる所以なのかもしれない。

【意見・提言】

- 校則の表現の仕方を工夫してはどうか。例えば書き方や内容についても、生徒に考えさせたり、生徒の意見を聞くことで、生徒たちもなぜこのようなルールが必要なのか気づくと思う。
- ケータイの使用を校内では一切認めていないが、ケータイの使い方についても学ぶことが大切。部活動等でも、利用することで録音や録画など、練習時に便利な面があると聞く。一度一考願いたい。